

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	(有)花音		
事業所名	グループホーム花音 (2ユニット合同)		
所在地	静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	平成24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2294200759&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、「入居者様お一人お一人が安心して心身ともに穏やかに暮らせる家です。」と、いつでも職員が胸をはって言える事。それが当たり前であるよう日々努力しています。2、ご家族、知人のご訪問がとても多く、毎日どなたかがお見えになり、居心地が良いとお褒めの言葉をいただいております。3、日中、居室にこもられる方は殆んどおられず、皆さんフロアで交流を深めていらっしゃいます。4、毎日、必ず、体操・ゲーム・レクの時間があり、体力、機能の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外観は白いブロックで一見無機質に感じる建物だが門をくぐると花壇にかわいらしい花々が咲き、中に入ると柔らかな白を基調とした優しさを感じる空間が広がっている。「のんびり」「ゆったり」という言葉が似合う穏やかな生活があり、ボランティアなどで訪問した人が「足を運びやすい雰囲気、居心地がよい」とまた来てくれる。開設の際、民生委員から「施設見学をさせてほしい」と申し出により10名余りの地域住民の訪問があり、ボランティアの提案や老人会の話などの地域情報をもたらしている。それが後に地域交流へとつながり、講座の開催ならびに地域の参加が叶っている。今後も利用者一人ひとりの気持ちを大事にしたケアを充実させ、「花音」らしい優しい時間が流れる事業所づくりが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム花音（2ユニット合同）	理念の中に地域という言葉こそ入っていないが、分かりやすい言葉にして、いつでも見られる所に掲示し、職員も十分理解し実践につながっている。	玄関先やフロアに理念を掲示しているが、共有するための取り組みは特に実践していない。利用者への言葉がけを気をつけていて、管理者は職員の言葉の端々に理念が浸透している様子を感じている。	「どんな事業所を作っていきたいか」について意見を出しあい思いを共有するなど、理念が身近に感じられるような工夫を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、定期的カラオケ訪問やたやお話に毎週訪問に来てくださる方もおり、町内の夏祭り等への参加も積極的に心がけている。	自治会に加入しているが回覧板は回ってこないため町内会長が地域の情報を伝えてくれる。防災訓練に利用者も一緒に参加したり、保健所の人を講師に招いて開催した講座に地域から参加があり、ボランティアも来ていて交流の機会が多くある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ここに認知症の施設があることを、民生委員の方や町内役員の方とも親交を持ち、町内に講演会の回覧を依頼したりして理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の安全の確保、ケアの取り組み、楽しみの向上等、課題を見つけては問いかけをしているが、評価にまでは至っていない面もある。	3～4ヶ月に1回の開催となっていてボランティアの皆さんも参加してくれる。市の消防部による出前講座を開催して地域からも参加があり興味を持ってもらえている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市との連携を計り、生活保護世帯等、問題解決のアドバイスを受けている。	運営推進会議に市や包括の参加が実現していないが、出前講座の開催に協力してもらったり生保の関係で毎月市の職員の訪問がある。市主催の研修にもできる限り参加するようにしている。	運営推進会議へ参加してもらえよう働きかけるとともに議事録を届けてさらに円滑な関係構築を進めることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止のマニュアル等を作成して、職員の日常の会話の中に見過ごされていることはないか啓蒙に努めている	玄関は開放してあるので自由に入出りできる。外に出たい利用者には見守りで配慮したり職員も一緒に歩いて気持ちが悪くまで寄り添っている。身体拘束排除に関する外部研修へできるだけ参加して職員の意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のヘルパー研修等、積極的に参加する機会を与えて、主に介護者側等からの言葉による暴力など見極める力を付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	要介護認定等に関する申請手続きの援助、必要に応じて立会いを支援している。家族にも成年後見制度のあることを伝えて本人の権利擁護に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には利用者、家族等と面接を行い一日無料体験を行い、重要事項説明書の理解、納得を図り、いつでも解約できることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を言葉に表すことが困難な時は、言葉の端々や顔色、態度を見失うことが無いようにしている。	すべての家族に運営推進会議の案内を出して参加を呼びかけている。毎月1回来てもらって、介護記録や利用者の様子を見てもらうとともにコミュニケーションを図るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則として月1回のミーティング(正社員、パートを含めて)。利用者の方の変化、職員の勤務希望、仕事の方法等、職員の持ち回り司会で何でも言える雰囲気作りに努めると共に職員の意見を踏まえるようにしている。	全体的な内容についての共用ノート、希望や要望を書き入れる何でも帳などノートの使い分けをして、職員の様々な意見を取り入れる工夫をしている。現在、食事について検討を重ねて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護業界が良い環境とは言えない中で、休憩時間を必ず1時間取れるようにしたり、気持ち良く働ける職場を提供するよう、人間関係に力を入れている。良い意見があればすぐ取り入れられるようにしたり、特技があれば伸ばすように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に二級ヘルパー、介護福祉士、認知症実践者研修、社外研修等々機会あるごとに働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3グループ内では、職員の応援や交流をして、質所向上を計っているネットワーク作りは同業者の会合や研修に参加して見聞を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの口頭での訴えが少ないので、趣味とか生活暦など話しかけをたくさんしたり、一日お試しを行い会話の言葉の中や態度、表情から受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の口からも家庭内のことで言いたくないこともあるので、直接関係の無い方の話を例題にしたり、内面的なことに耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の出来ることだけでなく、経済的配慮、必要とする福祉用具、医療面のアドバイス、訪問リハビリ等にも心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域社会の中であたりまえの生活ができるよう、また人生の先輩という事を心に置き、時には指導していただく気持ちを忘れず、ノーマライゼーションの考えに基づき接していけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的にならないよう意見や意向を把握すると共に、お互いに支えて医療的なことは分担しながらも連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が訪問され、一緒にレクを楽しむ方もいる。明るく開放的にみんなと接している。	毎日のように訪ねてくる友人や、娘の代わりに共通の友人の訪問がある利用者もいる。毎月訪問理美容があるが、馴染みの美容院を好んで自分で行ったり、家にある鉢植えの様子を見に行っている。日曜日に来てくれる家族が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、深い友人もできており、関係を作りづらい方には席の配慮をしながら、時には職員が間に入り、いたわりあう関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今迄契約が終了した方は県外に行ったり、特養に行ったり、ターミナルが終わったりと家族の都合によるが多かったが、必要に応じて家族に電話連絡等をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時には話の噛み合わない方もいるが、概ね自己決定できるので、本人の希望や意見の把握に努めている。	家族から生活歴を聞いて趣味などを把握したうえで思いを把握できるよう努めている。利用者の言葉を介護記録にとどめて、申し送りで周知している。会話の中からやりたいことが確認できた場合は他の利用者も誘い一緒に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日個人記録にその日の様子や変化を記入し、マンネリにならないように新しいものの試みをしながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの出来ること、過去に経験したこと等を把握して、やる気の起きるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを3ヶ月に1回必ず行うようにしており、ケアプランは半年に1回見直し、変化のある時は本人、家族等の意見を取り入れ何が出来るか協力して作成している。	モニタリングは担当制で取り組み、ケアマネジャーが家族の要望や職員意見を取りまとめプランを作成している。家族には毎月利用者の様子を見てもらう中で要望を聴き、きめ細やかなサービス提供へ向け申し送りでケアの統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別の支援経過記録を作り、はっきりした形で記入し必ず職員間に伝わるよう申し送りをして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望を満たせるよう全てのマニュアルに従うのではなく、その方に合った支援方法を探るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なつメロの会、うたと話し相手でのボランティアに来ていただいたり、散歩に行っは地域の方とのあいさつやふれあいなど、また民生委員や町内の人との交流や盆踊り等にも参加して支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9人中5人の方は往診を月1回利用している。他の方は家族が月1回かかりつけ医と連絡をとりながら送迎をしているが、家族の都合や急を要する時には直接支援を行っている。全員の薬の管理を行っている。	利用者の半数が協力医に変更している。家族が付き添う際は「受診用連絡票」を渡して主治医の適切な指示をもらえるようにしている。結果は口頭で聞き、個人ファイルや日報に記載し、薬の変化については申し送りノートで周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職だけでは対応できない部分は看護師に連絡して相談したり、訪問時に一人ひとり個々の問題点について質問しながら相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は週に一度くらいの頻度で見舞って病院関係者との情報を収集したり情報提供したり、利用者、家族を励ましたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Bユニットでターミナルケアを行った経験を活かし、終末期に向けた取り組みをしている。	契約時に事業所でできること、できないことを家族に説明して急変時にすぐ持ち出せるようファイルを作成している。開設から看取りに近い状況も含めて2件の実績がある。ケースによって対応も変わるので都度勉強を重ねている。今後は定期的に勉強に取り組んでいくことを視野に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を受けた者も何名かはいるが、久しく行っていない。急変や事故発生には救急時をお願いしているのが現状である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	市の消防予防課の方を招いて、この施設に合った用具の使い方、避難の方法等を地域の民生委員、職員と共に毛布を使っての搬送方法など講習を受けた。連絡網も作成した。	地域と事業所ともにお互いの訓練に参加しあえている。すぐ駆けつけられる職員との連絡体制を整えたり、ミーティングの中でシュミレーションを実施して課題検討している。次年度以降は防災の年間計画を立てて取り組む予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ内や、下着を汚してしまった時など、羞恥心を気遣ったり、対応する言葉掛けや表情にも気をつけるようにしている。	「優しい言葉を遣うこと」や「職員同士の利用者の情報共有は少し離れた場で行うこと」を心がけている。利用者の耳もとで話をしたり利用者同士の関係に配慮して職員が間に入っている様子を視認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な押し付けでなく、自己決定しやすい声かけを行い、返答なき時はYES、NOの問いかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	前後の事情を総合して、介護は10人いれば10通りの介護を意識しながら、明るく笑いの中から満足感を求めていくようにする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約1.5ヶ月に一度、ビューティーヘルパーに来てもらい、髪カットを行っている。その時、口紅を差したりすると非常に喜ばれたりして、女性は何歳になっても女性でありたいと願うので起床時、身だしなみ、服装に気をかけ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	糖尿病の方もいるので、全てうまくはいかないが、美味しそうな盛り付けを工夫したり、おやつ作り等もしている。	主業は職員が作り副業はケイタリングを提供していて朝、夕食は職員も一緒に食べている。食べやすい形態にしたり、彩りに工夫が感じられる。利用者の要望でメニューを考えたり、行事の時にちらし寿司やいなり寿司、オムレツなどを利用者も一緒に作って楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取、水分量をチャックして記録している。また、飲み物(コーヒー、牛乳、ココア、緑茶、ポカリスエット)など、本人の好みの物を提供するように努めており、水分は1000ml以下にならないよう、こまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの励行をし、歯ブラシの使えない方には義歯の洗浄やうがい等で支援している。夜は義歯を除菌洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し、誘導や介助には利用者の不安や羞恥心に配慮し、見守りや、自立に向けた支援を行っている。	夜間おむつを使用する利用者もいるが日中はリハビリで過ごしている。自立の利用者についても職員は声をかけるようにしている。尿意があり自分で行く利用者が多く、「尿意があること」の継続ができています。水分摂取は1日1ℓを目標にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食べ物、牛乳や水分に留意し、下腹マッサージで排便を促したり、体操や散歩で身体を動かしたり、排便パターンの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3回、体調に合わせて他の方と変更してもらったり、シャンプー等は本人の希望も取り入れながら、入浴拒否のある方にも、穏やかな対応を持ってタイミングを見計らって行っている。	週3日午後に入浴しているが、夜間以外は時間変更も受けることができる。また入る順番や湯の熱さの希望にも応じている。日曜日は基本的に休みとしているが行事との入れ替えで取り組むときもある。足拭きマットはひとりずつ替えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	シーツは週1回、パジャマは週2回、居室は毎日清掃して、夜間に安眠できるように、日中の活動を充実させたり、話し相手になったりして、眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の数が多いので、口に入れて飲み込むまで見守り、本人であるかの確認を行い誤飲しないようにしている。薬の変更トラブルの無いよう、確実にカード変更を行い、日頃の体調変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な時柄や、生活歴、趣味、嗜好品の把握に努め、レクリエーション等も個別に行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、気候の良い日は庭に出て外気欲を行い、そこから散歩にも出かけている。車を利用してドライブや花を見に行ったりしている。	朝の体操を外気浴を兼ねて外に出て行くこともある。散歩では土手を歩いたり公園に行くなどコースがいくつかある。花が好きな利用者も多く、気候がいい時は日本平、岡部、足久保など花見に出かけている。また化粧品など日用雑貨や衣料の買い物と一緒にすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かり無くなると入金してもらいながら、必要に応じてショッピング、自ら支払う事を支援している。又、外出困難な場合は希望を聞いて代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の所に年賀状や手紙も届いている。要望あれば、宛名書きの手伝いをする。電話もかけることのできる方には開放して、できない方には呼び出しを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるカベ絵を共同作業で作って貼ったり、玄関に花を飾ったり、心休まるよう努めている。またテレビの音、職員の声や日差しの強さの調整にも努めている。	白を基調とした中に色とりどりのクラフト作品や花が数多く飾っており、季節感のある掲示物も楽しい雰囲気が伝わってくる。共用空間は床暖房になっていてマッサージチェアもあり自由に使える。1日1回換気を行い新鮮な空気を取り込んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにマッサージ機を置き、好きな時に利用している。庭にベンチと椅子を用意しており、十分なスペースもあって、温暖な時は花の手入れをしたり散歩したり、思い思いに利用できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具、椅子、衣類、寝具、家電製品等、使い慣れたものを持参していただいております。居心地良く過ごせるよう、配置のお手伝いもしています。	ベッド、洗面台、ロフトが備えつけてある。壁紙は花柄がそれぞれの居室で異なり、表札にも花が飾られ柔らかい雰囲気を醸し出している。カーテンは好みのものをつけていて、テレビ、チェストを持ちこんだり習字の掛け軸やレクの作品を飾り思い思いの居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計を見易い場所に提示したり、居室の名札も用意してある。レク用品等、いつもと同じ場所で見付け易い所に置いてあり、危険なもの、つまづき易いものはおかないよう気配りしている。		